

営農情報

第100号 平成24年8月27日

大豆営農情報

南筑後普及指導センター
福岡大城農業協同組合

1 大豆の生育概況

○播種が遅れた影響で、大豆の生育は遅れています。現在ほとんどのほ場で中耕・培土が行われています。まだ行っていないほ場は、生育促進のためにも、早急に行いましょう。

○8月13～14日の降雨で、湿害を受けたほ場がありました。

2 ハスモンヨトウの防除について

8月24日頃、フェロモントラップ調査によるハスモンヨトウ成虫の誘殺数がピークを迎えています。本年は大豆の生育が遅れており、ハスモンヨトウの発生は、ほ場ごとに差がある状況です。ハスモンヨトウの1回目の防除適期は次のとおりです。2回目の防除を行う場合は、1回目の2週間後に行います。

防除適期 9月4～8日頃

3 防除薬剤

年々、カメムシ類の被害が大きくなっています。大豆の開花期以降で乗用管理機を使う場合、ハスモンヨトウとカメムシ類の同時防除を行いましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用回数	使用量 10a当たり
ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4000倍	2回以内	水100ℓ/25ml
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	2回以内	水100ℓ/50ml
紫斑病	トップジンM水和剤	1000～1500倍	4回以内	水100ℓ/100ml

※【散布量】 10a当たり100～300リットル

4 水管理

残暑厳しい日が続いており、夕立ちの少ないほ場では、土が過乾燥になっています。大豆は開花期以降、特に水を欲する作物です。この時期に乾燥ストレスを受けると、花が落ち、実付きが悪くなります。乾燥が著しい場合は、一溝ずつ水を入れるなど、かん水のやり方を工夫しましょう。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！